

若者を考える、若者と考える

YOUTH SERVICE

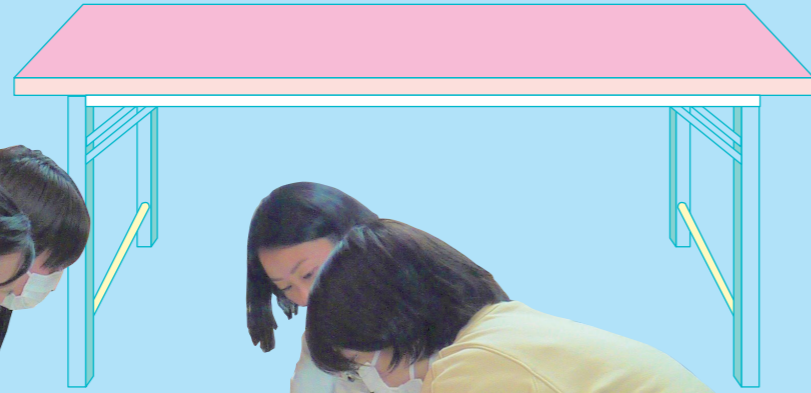
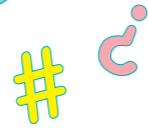
VOL. 39

若者と支援者をつなぐ広報誌

YOUTH SERVICE VOL. 39

2022年2月25日発行

お題



特集

YOUTHWORKを考える

— CATCH YOUR DREAM —

京都つくば開成高等学校

通信制 / 単位制 / 普通科

申込不要

学校説明会

場所 本校舎2階 時間 14:00~16:00 (受付 13:30~)

内容 学校紹介、募集要項説明、校舎見学、在校生による学校生活の紹介、個別相談

2022年 3月12日[土]

アクセス

- JR「京都駅」改札より北西へ徒歩8分
 - 京阪電車「七条駅」3番出口より西へ徒歩14分
- 〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町406番
できる限り公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ

TEL.075-371-0020 FAX.075-371-0021

E-mail: info@tkaisei-kyoto.jp

URL: <https://kyoto.tsukuba-kaisei.ed.jp/>



YOUTH SERVICE ユースワーク を考える



2009年から作成・発行をしてきた「YOUTH SERVICE (ユースサービス)」は、今号で遂に39号となりました。39号……さんきゅう号……サンキュー号! ということで、これまでたくさんのご協力をいただきながら進めてきた「ユースワーク」についてどのように考えているのか、これまでの京都市ユースサービス協会の取り組みを特集しました。

イギリスを起源とする「ユースワーク」。その意味と意義は何か、より明確に言語化することを目指す定義検討の場をはじめ、私たちは“ユースワークについて考える場”を様々持ってきたほか、日々実践を重ね、そして広く「ユースワーク」を知っていただくべく発信を続けています。その具体例をご紹介します!



ぷちメッセージ

青少年活動センター を想う

山科青少年活動センター 運営協力会会長
有限会社 川長商建
代表取締役
川中 長治



私とセンターとの出会いは、勤労青少年ホームが青少年活動センターになるタイミングで、知人から「寄ってこないか?」と声をかけられて運営協力会の会員になったことがはじまりです。「青少年のためになるなら」と先輩方の意思を引き継ぎ、現在、会長職をしています。当初より、委員も増え、関係委員の皆さまとともに歩んできました。

総会では、センター事業について協議共有をし、青少年のためのいろいろな事業や取り組みを考える機会を持っています。その中の1つに、「街の探検隊」という、青少年ボランティアが中心となり、ホテルをキーワードにして、地域の子どもたちにも自然や街に愛着をもってもらうことを目的とする事業も実施していました。

また、近年実施している拡大会議(青少年による活動報告・懇談会)では、いつも「若者はすごいなあ」と若者から元気やエネルギーをもらっています。そんな若者の皆さんにも大事にしてほしいと思っていることは挨拶や礼儀、「思いやり」だと常々感じています。私もこれからも「思いやり」をモットーに皆さんと一緒に青少年を支援していきたいと考えています。

contents

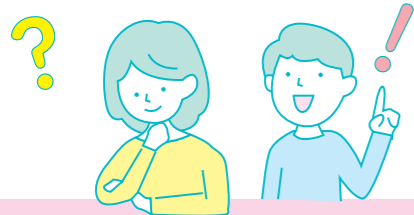
- 3 特集
「ユースワーク」を考える
- 8 高校生と作ったページ
高校生が「18歳成年」
について考える
- 10 シリーズ
はたらく若者
- 12 TOPICS
アウトリーチ
- 14 ユースかわら版
『CHEER(チアー)』しています! ほか

公益財団法人京都市ユースサービス協会は、京都市内7カ所の青少年活動センターと、子ども・若者総合相談窓口、生活困窮世帯の学習支援事業、社会的養護自立支援事業の一体的かつ効果的な運営を指定管理者として受託しています。青少年活動センターは、それぞれの施設・設備に特徴があって、個性的な事業活動をしています。また、厚生労働省から若者サポートステーションの運営を受託し、若者の社会的自立や職業的自立に向けた支援も行っています。

ユースサービスの理念

「ユースサービス」とは、子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援することです。子どもたちが家庭、学校、地域社会、職場などを通じて成長し、自分自身の興味や関心を高める過程で、必要に応じて助言や情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。そして青少年自身の参加によって、青少年と協働の豊かな地域社会を創り出すことを目的としています。





京都市ユースサービス協会で
取り組んでいる
あんなことやこんなこと

私たちはこうやって「ユースワーク」を考えています！

ユースワーク とは何か？

～定義を考える～

京都市ユースサービス協会
シニアアドバイザー
ユースワーカー協議会代表
水野 篤夫

ユースワークの 定義まとめは どんな意味がある？

「ユースワークとは何か」を
明確に語れるようになること
で次のようなことを狙いまし
た。

- 各地の実践者・実践団体が「ユースワークとは何か」を語る共通基盤ができる。
- ユースワークの独自性(他との違い)を説明することでユースワークの価値を幅広い関係者(市民・行政・関係団体・若者)に理解してもらう。

○ユースワーカー養成がなぜ必要かを説明出来るようにして、大学のなかでの養成課程の基盤づくり、各地の大学や行政・関係団体での養成につなげていく。

実践現場の 言葉を吟味する

京都市ユースサービス協会と立命館大学の共同研究(ユースワーカー養成研究会)において、「ユースワークとは何か」という問いに端的に答えるための作業を一昨年から進めてきました。研究会の中に「部会」を設置して、外部からもユースワークに詳しい研究者を招いて検討するとともに、現場ワーカーからの考え方を取り込む作業や、オープンな場での議論も間に挟みながら、ようやく「ユースワークの定義(研究会版)」をまとめました。学問的な言語化とともに、若者と関わる現場スタッフそれぞれが、自身は何を「願う」として若者と関わる現場において、それをどのように仕事として表現しているか、自身の職務基盤を確かなものにする作業でもあったと考えています。

ユースワークで 大切に していること

定義を
作っていく中で
見えてきたこと

こうした言葉や表現の吟味の過程で、「若者に自立を促すような表現を目標に入れない方がいいね」「社会の一員になることもそれが目標化したら苦しい若者もいるのでは?」等、ユースワークそのもの目標観の問い直しが進められたと思います。同時に「若者が権利主体であるという表現、若者とともにする活動という点は外せない」というように、ユースワークの核となる考え方も確かめられていきました。そうやってまとめられたユースワークの定義(研究会版)が次のものです。

ユースワークは、若者を子どもから大人への移行期にいるすべての人と捉え、若者が権利主体として自己選択と決定が保障される自由な活動の場を若者とともに形成し、若者及び若者と関わる大人やコミュニティ、社会システムに働きかける実践である。

またこれは、京都での実践を基盤とした定義案です。これとセットの「定義の背景にある考え」文と合わせて、もっと幅広い実践者、研究者、関係者(行政の人なども含めて)はもちろんです。若者からの意見ももらってグローバルに通用する考え方に向けて精査していく必要があります。この定義を世に問うて、「ユースワークとは何か」の議論を活発にしてい

れる言葉を探す作業を繰り返してきました。

事例研究会

協会内の職員で集って「ユースワーク」を考える場をもっています。日々青少年を中心に関わる中で、「あのとき自分はこういう対応をしたが、他にはどういう対応がきたらどうか」とふりかえったり、「こんなことがあってうれしかった、うまくいった」と実感したりする場面が多くあります。事例研究会では、こうした日々の実践の一場面や積み重ねを参加者同士で定期的にシェアし、意見交換を行っています。この場を通して、ユースワーカーらしい考え方や行動・想いを言語化していくことが目標です。そして、その考え方や行動の基礎となる事例知識を積み重ね省察していくこと、また、協会職員がチームとして青少年と関わっていきけるような共通認識を深めることを目指しています。

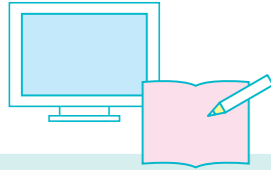
ユースワーカー協議会

当協会と、公益財団法人さつぽろ青少年女性活動協会、公益財団法人よこはまユース、名古屋ユースクエア共同事業体、NPO法人こうべユースネットの5団体のスタッフが呼びかけ人となって設立された協議会です。全国様々な団体が青少年育成や若者支援に携わっていますが、それらが専門職業として扱われているヨーロッパ圏と比較すると、日本はより専門性の確立と社会的認知度の向上を目指していく必要があります。そこで、この『ユースワーカー協議会』においては、ユースワークの考え方を共通基盤に据えた、実践者同士のつながりの場・研鑽の場があります。具体的には、現場見学会や研究会、シンポジウムを通しての実践者交流や、ユースワーカー養成プログラムの実施・検討・教材開発、ユースワーク実践および基盤強化のための調査・研究、ユースワークに関する情報発信などを行っています。こうして、団体を超えた実践者同士のつながりの場も、「若者の成長を支える仕事とは何か」「ユースワークとは何か」を考える機会となっています。

若者支援とユースワーク研究会

法政大学社会学部平塚真樹教授の『若者支援・ユースワークに関わる専門性の育成・評価をめぐる国際的共同研究(2020・2023)』のメンバーに加わり、国内外の研究者、実践者とともに研究活動を行っています。この研究会は、2012年からはじまり、日本・イギリス・フィンランド・デンマークを主なフィールドとして研究をしています。各国のユースワーカー、若者支援実践者、研究協力者と交流し比較研究を行ってきました。ユースワークの価値・意義を言語化し、発信する等にも取り組んでいます。現在は、イギリスのユースワーカーたちが始めたストーリーテリングワークショップを行い、(Storytelling(実践の語り)からDocumentation(実践記録)へを通して、ユースワークの価値や意義を言語化する活動を進めています。また、研究のまとめとして、書籍を作成中。Storytelling(実践の語り)からDocumentation(実践記録)について、紹介予定です。





ユースワークを広めるために



立命館大学大学院 ユースワーカー 養成プログラム

2006(平成18)年から、立命館大学と当協会が「ユースワーク」について共同研究をはじめました。その一環として、大学院応用人間科学研究科(現人間科学研究科)にユースワーカーを養成する、全国初めてとなるユースワーカー養成プログラムが設置されました。このプログラムでは、講義や演習だけではなく、主に京都市内の青少年活動センターで90時間を超える実習も行い、ユースワークに必要な考え方・態度・スキルを実践的に学び、対人援助者の養成をしています。



このプログラムの修了生は、全国各地でさまざまな現場で若者支援に携わっています。

ユースワーカー養成講習会



当協会では、さまざまなコミュニティにおいて若者の成長支援を行うための専門的力量を育てるため、若者の「いま」と「これから」を支えるユースワーカーを育てる「ユースワーカー養成講習会」を実施しています。

「修了認定コース」につながる「基礎講習」を実施し、ユースワークの概論、青少年に関わる上での自己理解など、ユースワーカーとしての基礎を2日間で学びます。

数年前より、他都市から依頼をうけてユースワーカー養成講習会の出張講座も実施しています(例右巻、名古屋、横浜など)。

まとめ

私たちユースワーカーが、大切にしていることや、日々行っていることについてまとめました。

「ユースワークとは何か」、私たちは日々考え、語り合い、試行錯誤を重ねてきました。当協会の中だけではなく、他団体の実践者や研究者、関係者の皆さんとも議論を積み重ねてきました。そして、定義ができあがりつつあります。

私たちはこれからも日々の実践をすすめるながら、考え続けます。そして、もっとたくさんの人に知ってもらいたい！若者支援や理解の輪を広げたい！とも考えています。

この特集をきっかけに、より多くの方にユースワークについて関心をもってもらえ、若者支援(伴走する大人やサイドプレイスの大切さ)について共感する方が増えてほしいと願っています。今後も多くの方と協働しながら、若者にとって必要なユースワークを広げていきたいと思っています。

これからもご支援ご協力の程よろしく願っています。

ユースワークの現場



参加型プログラム

各センターで実施している参加型のプログラムには、様々な青少年が来ています。居場所を求めている若者、プログラムの内容に「面白そう」と来る若者、「グチ聞いてほしい」「何か話したい」と思って来る若者、「やってみたらなんとなく来てみた」という若者などなど。様々な青少年が来る場だからこそ、それぞれができる限り気持ちよく過ごせる場となったり、何かを得られる場となったりすることを目指したい！そのような場となるよう、ユースワーカーとして、「どのように青少年ひとりひとりに働きかけたらいいだろう」「どういふふうに関全体をコーディネートしたらいいだろう」と日々考えています。



自主活動応援

青少年が参加する場をつくることもあれば、青少年の方から「実は〇〇をやりたいと思っているんです」「今こういう活動をしているんですけど、広報に協力してもらえませんか?」とアプローチがあることも。もともと別の目的でセンターを利用していただいていた青少年と日々会話を重ねる中で、そういった想いを聞くこともあれば、こちらが発信している「自主的な活動をサポートします」という情報を見つけて相談しに来てくれるパターンもあります。こうした機会は、今までセンターを利用していなかった青少年にとって、気軽に話すことができるユースワーカーの存在を知ってもらうためのきっかけになっていて、その後の関係づくりにつながっています。

ボランティア活動

センターでは、多種多様なボランティア活動を実施しており、年間800名近い青少年がボランティア活動に参加しています。「とりえず何かしたい!」といった場合もユースワーカーと一緒にボランティア活動を見つけていきます。ボランティア活動の基本は、一人ひとりが主体的に活動することです。行動する機会があれば、多くのことに気づき、学ぶことができます。その気づきは、自分自身についてだけでなく、他者や社会にまで広がります。当協会では、ボランティアも青少年支援活動に対する理解者として、「ともに発見し、成長するパートナー」であると考えています。ユースワーカーとボランティアが協働することによって、より広がりを持った事業を展開しています。



ロビーワーク

センターのロビーにはさまざまな人がいます。1人で過ごしている若者、友人と楽しくおしゃべりをしている若者たち、マンガを読んだり、ゲームをしたり、勉強をしたり、お昼寝をしたり……過ごし方は自由自在。ユースワーカーは、青少年が気軽に利用する場になるように日々試行錯誤をしながら、何でも話せる存在としての関係づくりをしています。受付での他愛もない会話が関係性の一歩目です。普段の関わりだけではなく、センター利用者を巻き込む事業として、ロビープログラムを各センターで実施し、掲示型やイベント型のロビー企画までさまざまな形で青少年と関わりをもち、交流を深めています。



高校生が「18歳成年」について考える

2022年4月1日から、民法改正により成年年齢が20歳から18歳に引き下げられます。18歳成年についてあなたはどのように思いますか？
そんな疑問から18歳成年についてアンケート^{*}を取り、そこから様々なことを当事者である私たち高校生が考えてみました。
*アンケート：2021年12月実施 総数74名(うち高校生36名)

20

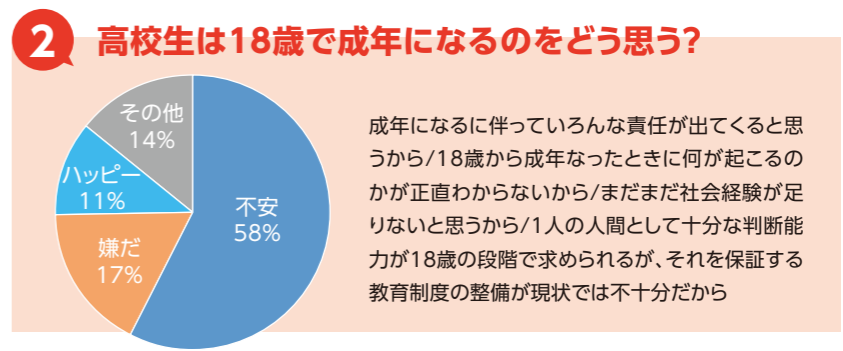
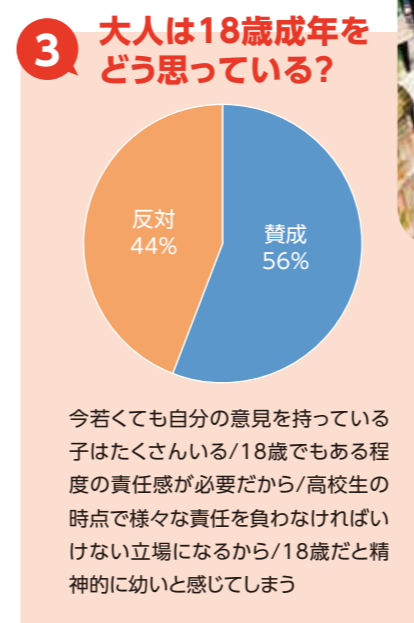
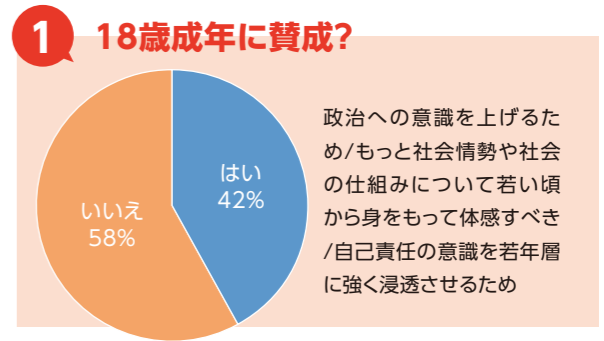
変わらないうと

喫煙、飲酒、公営ギャンブルは、20歳のままです(健康被害、ギャンブル依存対策、青少年の保護の観点から肉体的・精神的・社会的な成熟が求められるものは民法改正後も変わりません)。養子縁組も同様です。

変わるよ

保護者の同意なしで物事の契約を行うことができるようになります。しかし、それと同時に契約を解除することが出来なくなります。つまり、契約を結ぶかどうかを決めるのも自分、その契約に対して責任を持つのも自分自身となります。
また、現在、20歳未満の人が保護者の同意なしに契約をすることは出来ません。もし、保護者の同意なしに契約したとしても「未成年者取消権」により契約を解除することができます。他にも、婚姻年齢が18歳になります。

18



考察

今回の調査でわかったことは、高校生と社会人全体に18歳成年に賛成か反対かを尋ねると、賛成は42%と半数に満たなかったですが、一方で、社会人だけを対象に同じ質問をすると、56%と半数以上が賛成の意見でした。高校生に18歳成年をどう感じているかを尋ねると、ハッピーと答えた人は11%にすぎず、半数以上の58%が不安に感じていました。

その理由として目立ったのが、社会の仕組みや成年について知らないからというものです。もし、不安になるのが社会を知らないからだとすれば、もっと私たちが社会について探求する必要があるといえます。社会を知った上での不安は、何も知らない不安とは違うと思います。

また、社会人の賛成が多いという事は、私たちへの期待だと捉えることもできます。その期待に応えるために、もっと私たちが知っていききたいし、それをサポートできるような、私たちが安心して成年を迎えられるような国や社会の制度があってほしい、と感じています。

賛成

[はるき]感想

[のり]感想

私は、成年という立場で具体的にどう社会を生きていけばわからなくなり不安になることがあり、同じような声が今回のアンケートでも散見されました。改善策としてあげられているのが、シティズンシップ教育で、生徒同士での意見交流やアクティブラーニングを行うことを社会参加のためのスキルを一緒に身につけられ、欧米では個人と社会の関係の希薄化改善に期待を寄せているといえます。他にもいい活動がないかたくさん調べていきたいです。



[よね]感想

この企画を通して18歳で成年になるという事に不安を感じている高校生が多いことが分かりました。確かにただ20歳で成年になるのが18歳になるといふことしかわかっていない状況では不安に感じると思いました。しかし、この制度は決まってしまうものなので、これから私達はもっと政治などに関心を持つことが重要だし、政府は高校生の間に世の中のことを学ぶ機会を作る必要があると思えました。そのためにも自分から進んで政治やお金、世の中のことに関心を持ち、学んでいきたいと思えます。

終身雇用制度は崩壊し、働き方が大きく変化している今日。一人ひとりで見ると、よくある話かもしれませんが。でも複数回並べてみると、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあまり出されるのではないかと。はたらくから若者の今を見つめます。

中島 彪さん 20歳
外構土木事務所 正社員



今の仕事について教えてください。

外構土木の現場で働いています。外構土木といっても、イメージされるような一般的な土木現場や道路工事とかではなく、僕がやっているのは住宅周りの仕事です。土を実際に触って、決まっている高さに土を敷いて、碎石を混ぜて、コンクリートをつくっています。それで、決まっている範囲が同じ高さになるように糸を張って見ていきます。そんな感じで、結構なんだかんた何でも屋じゃないかな。ブロック積みや、解体もやります。所属の社長が優しいから、仕事を受けちゃうんかな。(笑)

楽しいこと、反対に大変なことはありますか。

仕事自体というより人がおもしろいと感じています。同僚や社長はおもしろい人。プライベートではいけれど、仕事になったら人間性が見えてきますよね。

仕事自体は楽しいと思うけれど、

スキルが育たないことと上司が厳しいのが大変かな。

仕事をあまりやらせてくれない。ブロック積みであったとしても、自分で積んでみたいっていうのはあるけど、いざやるとなるとわからないし、教えてもらわないといけない。でも上司は「見て覚えろ」ってタイプですね。やるなら一緒にやって見せてほしい。人を育てようと思うなら一緒にやらなからへんと思うから。

一番大変だったのは、夜勤ですね。仕事の内容全てがしんどいというわけではなく、夜勤だけじゃなく厚も仕事をやっていたので本当に疲れた。精神的に疲れました。がんばろうと思うときは仕事前にカフェインをとりまくる。よく怪我しなかつたと思いますね。(笑)

生コン(コンクリート)をならす時に「コンがうまい」って褒められたの覚えてます。やっぱり褒められると嬉しいですね。

将来やっていきたい仕事について教えてください。

居酒屋を開きたいです。僕が和風好きだから、和風の料理が出せる居酒屋がいいですね。店の大きさとかはまだ考えてないけど、二千万円くらいでできるくらい。今、貯金しています。

小学校の時の家庭科の調理実習で「おもしろい」と思ったのがきっかけかな。運動会や遠足では自分でたまご焼きとミートボールと冷凍のから揚げのお弁当を作っていました。同居していた親戚が亡くなって、小学4年生くらいから料理を作ることはいくらもありませんでした。うぐんの出汁とかも自分でひきたくてやりました。

もともと自分に夢はなかったけど、居酒屋って雰囲気いいし。みんながお酒を飲んで楽しそうに見える、それを自分でもつくりたいなと思う……。子どもやおじいさんおばあさんもこのお店に行きたい！って思わせられるような店にしたいです。居酒屋やけど子どもでも行きたいと思えるような店にできたらいいな。

あとは、今所属している土木の

現場の所長に持ち掛けられている仕事を考えているんですが、自分の中では副業だと思っっています。2年くらいは現場を経験して、その後は後輩育成をして自分は運営に回り、後輩に現場を任せたい。

働かなくてもお金を稼げるようにしたい。趣味でお金を稼ぎたいと思います。(笑)

あなたにとって「はたらく」とは？

正直、嫌々ではあるけど将来のためですかね。将来の家庭のため、これから持つかもれない家があったら、そのためもあるし。どっちかと思ったら働きたくない。でもお金持ちになりたい。(笑)

まだなんにも行動できてないのに未来の話はしたくないんです。「いつやりたい」というのはあるけど、自分がまだ取り組んでないのがあるから。でも将来の理想はあります。それに向けてがんばりたいです。

アウトリーチ

アウトリーチとは？
その目的とは？

なにも大事にしているのか？

京都市ユースサービス協会は、京都市から委託を受けて市内7か所の青少年活動センターを運営しています。全国的にも数少ない、青少年のための施設を拠点として「ユースサービス」をすすめています。30万人全ての若者に「ユースサービス」を届けることを目標に、まだ出会えていない若者のニーズをキャッチするために多様な取り組みをしています。今号では、多様なパートナーシップを築き、展開しているアウトリーチ事業の一部を紹介します。

夜のユースセンター



「閉館後にもふらっと行ける場所あったらいいのに……」「青少年活動センターなんて休館やねん……(コロナ禍)」そんな声に応え、その名の通り夜の時間帯の青少年活動センター、「夜のユースセンター」を街中のカフェと一軒家で開いています。お洒落なカフェと実家みたいな場所、雰囲気が違う2つの場所で、30歳までの若者であれば無料の若者食堂をはじめ、いろんな仕掛けを用意しています。もちろん、誰かと過ごすもよし、一人で食べてもよし、いつでも予約不要でふらっと来ることができ、自由に過ごし方を選べる場所です。今はカフェですが、今後モラティブハウスなど、事業者と連携する「INDEPENDANTS / アンデパンダン for youth」、一軒家を若者の場所として運用する「同時代セカンドハウス」を、多様な主体との協働で、京都のあちこちで実施を企んでいます。若者も大人もぜひ巻き込まれに来てください。

INDEPENDANTS / アンデパンダン for youth
日時：毎月第3火曜日 18:00~23:00
場所：1928ビルB1F(中京区三条通御幸町東入)
同時代セカンドハウス
日時：毎週火曜日 18:00~23:00 ※第3火曜日休み
場所：同時代ギャラリー Garage/Residence (南区東九条松ノ木町)
対象：京都市内および近隣地域の13~30歳の若者

※本事業は「赤い羽根 新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン居場所を失った人への緊急活動応援助成」、「パブリックリソース財団 福祉・教育・子ども分野助成基金」の助成を受け実施しています。



宮本 千夏さん
INDEPENDANTSマネージャー
かねてから子ども食堂に参加したかったので、この場所を選んで頂いてとても嬉しいです。いろんな人に浸透してくれたら嬉しいなと思います。

同時代セカンドハウス利用者
おばあちゃんの家のような所で、中学生から社会人まで色々な方とゆるゆるご飯を食べたりおしゃべりして過ごせます。



洛西HOTTO

「こんにちは」まちづくりプラザさんへの挨拶に始まり、準備をしていると、ポツポツとボランティアがやってきてくれます。一緒に会場準備をしていると、中学生など、近所の子ども・若者たちも順次集まってきました。「試験、めっちゃ頑張った」と雑談が始まったり、「コレ持ってきた」とカードゲームやお土産を出してくれたり、「今日は何する？」とボランティアからの声かけに遊びが始まったり、「フッキーつくりたい！」と企画が始まったり……。フリースペースとして開設している「洛西HOTTO」は、過ごし方が決まったりしながら過ごしています。時にはまちづくりプラザさんから「一緒にやりませんか？」とお声がけをいただいで、装飾や夏祭りをするなど、自分たちだけの場ではなく地域の方々のつながりを感じることもできる機会もいただいています。

何かしたいときに、ちよっと、行けるとっておきの秘密基地を目指して、日々アットホームに場を紡いでいます。

張本 将利さん
らくさいライフスタイル
「多世代の繋がりを生む場づくり」私たちがまちプラを運営する目的を体現していただき、感謝しています。

ボランティア
ボランティアの自分もけっこう自由に過ごせることが魅力です。／洛西には青少年活動センターみたいな場所がないので、こういう場所若者がやりたいと思ったことを後押しできるといいな。

参加者
楽しかったのは「夏祭り」です。駄菓子屋をやったり、来てくれた人が喜んでくれたりして楽しかったです。／みんなでいっしょになんか作ったりするのがたのしい。

日時：毎月第2土曜日 15:30~19:30
毎月第4土曜日 17:00~19:30
場所：京都市交流促進・まちづくりプラザ (西京区川島五反長町)
対象：西京・洛西地域の主に10代の若者



向島ユースセンター

「よってく？」をキーワードに商店街の一角でひっそりとはじまった若者のための場所「向島ユースセンター」。若者と濃い時間を過ごし、地域と関係を密にしながら、徐々に仲間もでき、着実に輪が広がってきています。現在は、元向島中学校跡地(むかちゅうセンター)にて実施、毎回約50名の中学生、高校生を中心とする若者が訪れ、おもしろい時間を過ごしています。体育館でバスケットをする、ロビー空間でマンガを読む、友人やスタッフと雑談する、何でもOK。地域のお祭りにスタッフとして参加する若者もいます。こういった活動ができるのは、地域の理解があつてこそ！ 地域の会合やイベントにも積極的に参画しながら、地域と若者のハブになれる場所を目指しています。資金や人材など課題もありますが、若者や地域とともに、向島ユースセンターの挑戦はつづけます！

長澤 敦士さん
向島ユースセンター実行委員会
向島地域の若者の「想い」に触れることができるときに、この場所の意義を感じています。



参加者
金曜日の楽しみになっています。学校の友達にも会えるし、きたら誰かとしゃべれるし。



日時：毎週金曜日 17:00~20:00
場所：むかちゅうセンター (伏見区向島二ノ丸町)
対象：向島地域の13~30歳の若者

ユースかわら版

広報誌に関する
「意見」「感想」は
「お声」欄へ
お気軽に入力してください。



報告

『CHEER(チア)』 ついでですー！

「劇団Canvas」は、2021年4月に立ち上がった劇団です。団長は、「新型コロナウイルス感染症の影響で元所属していた劇団の最後の公演ができなかったことが心残りだった」と立ち上げ理由を話しています。そのため、「いろいろな娯楽が制限されている中だからこそ、大人も子どもも演劇を見て少しでも楽しい気持ちになしてほしい」というコンセプトを掲げ、練習もオンラインを活用しながら活動されています。7月に予定していた旗揚げ公演は残念ながらオンライン配信へ切り替え、今後、別の脚本で再挑戦します。

中央青少年活動センターでは、若者の「やりたい」という気持ちを応援しています。サポート内容や時期は要相談となります。自分も何かやってみようという方は、まず一度気軽にお問い合わせください。



Kokoka オープンデー！

去る11月3日(水祝)に京都国際交流会館(Kokoka)で行われた「Kokokaオープンデー2021」に出展しました。

伏見青少年活動センターで取り組む多文化共生事業をはじめ、当協会での取組紹介をしました。また、親子で楽しめる体験コーナーとして、センターのテラスに自生するミントを収穫・乾燥させたものを使った「サシェ香り袋づくり」も企画。袋の生地、柄や香りの種類などを相談・協力しながら工作を楽しんでいただきました。事前に用意した100組の材料もすっかり無くなるほど大盛況。

普段、センターで活動している青少年ボランティアも、「いつもと違う活動は新鮮で、いろんな人と交流ができて楽しかった！」と喜んでいました。



フードパントリー ついでです♡

山科青少年活動センターでは、「コロナ禍の影響で「やませい食堂」が開催出来ない中、検討した結果、やっと形に出来たのがフードパントリーでした。いざ始めてみると様々な企業や団体からの寄付もあり回数を重ねるたびに「コミニ」やSNS、チラシを見て来てくださる方が増えていきました。今では元々子ども食堂を利用していた子ども達やそれ以上に多くの利用者にお越しいただき盛況を博しており、コロナ前の日常が少しずつですが戻っているように感じうれしく思います。この活動に対し、利用者の方々も同じく日常に戻つつある安心感を感じていただけていると思いますのでずっと続けていければと思います(ボランティアD)。



ゆるっとラジオ はじめました

南青少年活動センター、ラジオを始めました☆その名も「南青少年活動センターの暇レイディオ(仮)」。内容は、若者の活動紹介と恋愛相談屋によるミニトークで30分ほど。ツイッターで告知、ツイキャスにて配信しています。2021年5月の緊急事態宣言下からの取り組みで、当初はセンターが閉まっている中で何かできないかという思いでやっていたのですが、「ラジオ制作って若者の声をストレートに聞けて発信できる最強のアクティビティじゃね？」と盛り上がりそのまま続けています。(笑)村おこし活動からCLUBの楽しみ方まで、何かに夢中になっていて語れるならノージャンルで出演してもらっています。



これから

若者の「創作」を 応援します！



東山青少年活動センターには、若者の創作活動を応援する創造工作室があります！

木工や染色、陶芸、絵画、紙すき他、さまざまな創作に挑戦できるスペースです。陶芸台や電動ろくろ、手回しろくろに昨年2月に新しく入った焼成窯もあり、陶芸作品の制作から完成までが可能です。また、作品の制作に必要な消耗品以外の工具や道具の無料貸出も行っています。広い作業スペースがほしい方、多人数で作業したい方等、多様なジャンルの活動に使っていただけます。青少年にはプラスでさらに便利に使えるサービスもあります。制作に集中したり、仲間と過ごしたり、相手を想ったり、そんな素敵な時間が生まれる空間です。ぜひご利用ください。



創造工作室のパンフレットを作りました♪

ユースシンポジウム



3月6日(日)「18歳だから?」成年年齢引き下げについて考える「ユース」をテーマとしたシンポジウムを開催します。成年年齢引き下げに伴って何がかわるのか、変わらなないのかについて、若者を中心として対話することを企画しています。

オープニングには放送大学・千葉大学教授であり「若者の移行期」を長年研究されてきた宮本みち子さんをゲストに、まずは全体像を概観します。その後、2つの分科会に分かれ、「成形式や「国際」の観点から若者自身と考える場をつくります。要申し込み。詳細はHPをご覧ください。



ユースカル！2021 写真展を開催！



2018年から京都市の委託を受け、若者文化の発信を目的として「ユースカル!」若者文化市」という事業を開催しています。「ユースカル!」は「ユースカルチャー」の略称で、事業の大きなテーマは「若者のミカタ」です。若者の多様な営みを文化と捉え、事業を通じて広く市民の方へ彼らの活動の端を知ってもらうことで、若者文化を「面白い」「身近なもの」「応援したい」と思うきっかけづくりとなることを企画しています。

4回目となる今年度は「創造プロセス」をコンセプトに据え、ユーザーが出会った若者や、取り組んでいる活動(文化)への想いを

ご寄付のお願い

公益財団法人京都市ユースサービス協会ではユースサービスの理念のもと、以下を柱として様々な取り組みを行っております。

- ・若者が本来持っている力を発揮する場づくり
- ・若者が課題を乗り越えていくための支援
- ・若者の市民参加、地域社会への参加を促す
- ・ユースサービスの活動を広く知ってもらうための活動

どうぞよろしくお願いいたします。

郵便振替 口座番号	00950-2-172487
口座名義	公益財団法人 京都市ユースサービス協会

※専用払込取扱票が必要な場合は、京都市ユースサービス協会事務局までお問い合わせください。

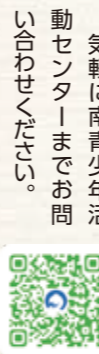


発行
公益財団法人 京都市ユースサービス協会
〒604-8147
京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262
TEL: 075-213-3681 FAX: 075-231-1231
E-mail: office@ys-kyoto.org
HP: http://www.ys-kyoto.org
印刷: 株式会社谷印刷所 デザイン: 株式会社オム

や始めたきつかけなどが伝わるような動画を作成、撮影風景の写真を展示します。期間中には、参加型展示や創作体験ワークショップも行います。



日時: 令和4年3月16日(水)~21日(月・祝)
10:00~17:00
場所: ロームシアター京都 プロムナード
入場無料
共催: ロームシアター京都(公益財団法人
京都市音楽芸術文化振興財団)
協力: Social Work / Art Conference
(一般社団法人HAPS)



気軽に南青少年活動センターまでお問い合わせください。